星の子だより

第 13 号　2013 年 6 月発行
東北大学病院病後児保育室
星の子ルーム

定禅寺通りのケヤキ並木の緑がまぶしい季節になりました。

日頃、星の子ルームの利用において、ご理解をいただきありがとうございます。

星の子ルームの保育状況や育児情報が少しでも利用者の皆様に役立ててもらえたらという「星の子だより」も、刊行してから今年で 5 年目を迎えました。いつもご愛読くださりありがとうございます。

利用者の皆様に星の子ルームを少しでも活用していただきやすいように、利用方法などにおける問題点に関して、実務者委員会で毎月議論を重ねております。その際、毎年ご協力いただいているアンケート結果はもちろん、毎年スタッフが発表している全国病児保育研究大会で得た全国の病児・病後児保育室の保育状況も、参考にしています。

常に感じるのは、“預かるお子様の安全・安心”と“利用者の利用しやすさ”が必ずしも一致しないことが、病後児保育の難しい点だということです。しかし、“いい保育環境をこどもに与えたい”という気持ちはみな抱いており、星の子ルームはその共通に抱いている気持ちで繋がっているのだと思います。

どうか、これからも星の子ルームの利用においてご理解をいただけると幸いです。

（東北大学教室員会福祉厚生部書記・病後児保育実務者委員会　福與なおみ）

ほいくしつのようす

ミルクっておいしいね

なにができるかな？
シールってたのしい！

ぱっくんもぐもぐ
おいしいよ

お知らせ～New～

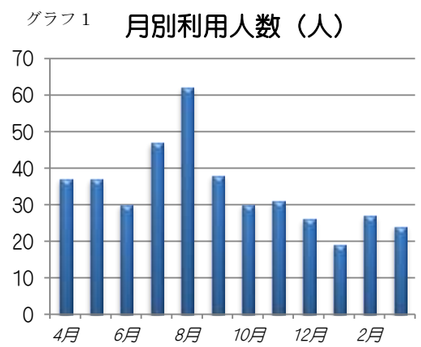
５月から、翌日の利用可能人数を留守番電話のメッセージでお知らせしています。
星の子ルームのご利用に際して、ぜひお役立てください。

昨年度の利用状況

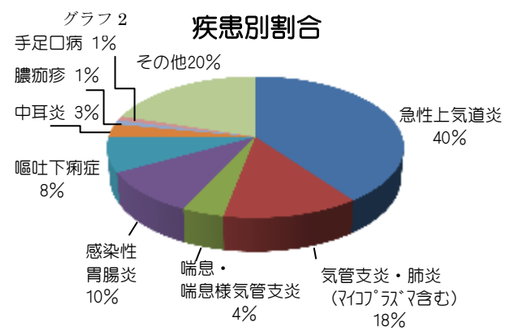
星の子ルームでの、平成 24 年度の利用状況をお知らせします。

1 年間の利用総数は 408 名で、1 日平均 1.66 名となっています。1 日の最高利用人数は 5 名でした。昨年度は夏の利用者が多く冬は少ない傾向がみられました。（グラフ 1）夏の利用者が多かった理由として、アデノウイルス感染症や手足口病、ヘルパンギーナに加えて、昨年度はマイコプラズマ肺炎が全国的に流行し、その利用者が多かったことが挙げられます。疾患別の割合をみると、呼吸器疾患が全体の 6 割以上を占めており、また季節を問わず感染性胃腸炎や嘔吐下痢症などの消化器症状で利用するお子さんが多くみられたことも昨年度の特徴のひとつでした。（グラフ２）

グラフ 1



グラフ 2



スタッフの紹介

渡邉晶子（保育士）
朝たくさん泣いていても何かの瞬間にぴたっと泣き止んで遊びだす姿をみていると、子どもはたくましいなぁと感心しています。そんなけなげな子どもたちをこれからも見守っていきたいです。

松田ひとみ（保育士）
大学生の娘と高校生の息子がいます。小さい時は熱をだしやすい二人でした。皆さんの大変さがよくわかります。子供が手を離れ、私は今、ダイエットのためジムに通っています。

渡邉　松田　遠藤　石屋

石屋久仁子（看護師）
私の 3 人の息子（高 2 中 2 小 5）も星の子ルームにお世話になり、大きくなりました。お子様が早く回復できるようサポートしたいと思います。

遠藤典子（看護師）
小学生の息子がいます。その息子も突然の熱で仕事を休まなければならないことが何度もありました。この経験から、みなさんの手助けができればと考えています。

◎予約・問い合わせ　022(717)7819　◎メールアドレス　hoshinoko@bureau.tohoku.ac.jp
◎ホームページ　http://www.morihime.tohoku.ac.jp/hurdling/hoshi.html